



「海の日」ってどうしてあるの

海に感謝し、海洋国日本の繁栄を願うため

平成9（1997）年7月20日から、国民の祝日「海の日」がスタートしました。

日本は、四方を海に囲まれた島国であり、海洋資源の利用やレクリエーションなどで、海からたくさんの恩恵を受けています。

「海の日」は、海の恩恵に感謝するとともに、海洋国日本の繁栄を願う日として、法律で定められたのです。

この日を選んだ理由は、明治9（1876）年、明治天皇が初めて明治丸という船に乗って、北日本地方を旅行し、横浜に帰ってきたのが7月20日だったからで、そこでこの日が海の記念日に決められたのです。

海運にたよる日本

日本は、世界有数の工業国であり、工業製品は、おもに外国に船で輸出されています。これらの工業製品を作るための原料は、外国から船で輸入されています。つまり、海運は、日本にとって、非常に重要な輸送手段なのです。

日本の海上輸送量の品目をみると、輸出では、鉄鋼、セメント、機械類、電気製品、乗用自動車の順になっています。一方、輸入では、原油、石炭、鉄鉱石、石油製品、木材の順になっています。

これらの貿易品を、安全に輸送するためには、これまで以上に、世界の国々と仲良くしていく必要があるのです。（監修・田代 脩）

